

空白の時代をどう考えるか

1998年～1994年の空白

バブル経済の仕組み

バブルとは「泡」のこと



ある予言

イギリス人経済学者ビル・エモット

ビル・エモット著鈴木主税訳『日はまた沈む』
(日本語版は1990年草思社)P310

だが、いつまでも昇り続ける太陽という比喻は、実際にはあたっていない。日はただ昇りつづけることなく、やがて沈む。それが日本の新しい時代、日が沈む時代である。すでに1980年代半ばからそれははじまっており、日本が資本を輸出しつつ、日本の力の台頭に対する推測と懸念が高まっているいっぽうで、着々と進行している。日本の興隆を特徴づけていた要素は、興隆それ自体のために変化した。つまり、豊かさ、国際的な場に引き出されたこと、余剰資本、強い円が変化をもたらしたのである。日本は消費者の国、快楽を求める国、輸入業者の国、投資家の国、そして投機家の国になった。ありあまる金と自由化金融市場が、この新しい投機家の国をブームと崩壊の国に変える危険性がある

1989年

泡は、どんどんふくらむと…

当然割れる！



泡(=バブル)経済は、崩壊を迎える=1989年

実際の崩壊は瞬間ではない

バブル=泡=瞬間の崩壊 という誤解

①、株価のマックス

1989年12月末の日経平均株価

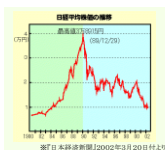
②、中央の地下は1991年、地方は92年に下降を始める

③、93年11月の経済企画庁

の談話、「平成景気は86年12月に始まり、

91年4月に終わって、景気後退に転じた」

実際には「じわじわ」進行した不景気



90年度前半

95年に至るまでに

バブル崩壊の影響は、徐々に浸透

つぶれる大企業(ex山一証券)

多くの大企業の大量のリストラ

新卒社員の採用を控える

いい大学→いい企業→安定した人生 という

神話の崩壊



「大きな物語」という理論

ジャン・フランソワ・リオタール
(Jean-François Lyotard)

1924年8月10日 - 1998年4月21日)

フランスの哲学者。

フランス生まれ。マルクス、フロイト、現象学などを学んだ。アルジェリアで哲学教師となり、以後パリ第8大学教授などを務めた。急進的なマルクス主義者としてアルジェリアで活動。帰国後、1968年のパリ五月革命に参加。主著に『**ポストモダンの条件**』(1984)。「大きな物語の終焉」「知識人の終焉」を唱え、ポストモダンを流行語にした。



大きな物語 (= 神話) の消失

大きな物語 多くの人々に信じられている物語

(例) 最近までの日本人

いい大学は安定した人生を保証する

(学歴社会神話)



資本主義はいつか自滅して社会主義になる

(マルクス神話)

親は子を育て子は親を助けながら続いてく

(家族神話)



「絶対主義」と「相対主義」

「絶対主義」 何か基準になる価値を基にして、それを絶対に正しいという前提で、すべてを判断していくこと

「相対主義」 基準になる正しさなんてないから、それぞれの「正しさ」を尊重しあえばよい、という考え方。

「絶対主義」



王政の時代 資本主義の時代 マルクスの時代



「相対主義」の時代

浅田彰は、80年代を「相対主義」時代と評価

「明るい豊かな未来」を築くためにひたすら「真理探求の道」に励んでみたり、企業社会のモラルに自己を同一化させて「奮起努力」してみせたり、あるいはまた「革命の大義」とやたらに目覚めて「盲目なる大衆」を領導せんとしてみたりするよりは、**シラけることによってそうした既成の文脈一切から身を引き離し、一度すべてを相対化してみる方が**ずっといい。繰り返すが、僕はこうした時代の感性を信じている。(中略)

対象と深くかかわり全面的に没入すると同時に、対象を容赦なく突き放し切って捨てること。同化と異化のこの鋭い緊張こそ、真に知と呼ぶに値するすぐれてクリティカルな体験の境位であることは、いまさら言うまでもない。簡単に言ってしまうと、**シラケつつのり、ノリつつしらせること**、これである。『構造と力』(1983)



「相対主義」ってそんなにいいのか？

相対主義 どんな価値観もそれぞれ……って一見よい？

① あらゆるものが信じられないという状態

「**懐疑主義**」に陥る

② 方法同士がぶつかったらどうするのか？

バトルロワイアル(全面直接対決)に繋がる

③ 何か選択を迫られたらどうなるのか？

未来は予想出来ないことが多い

現在の選択で未来は決まる

あれもこれもという選択は出来ない



90年代前半に進行していた「病」

徹底した「相対主義」による「懐疑主義」による無気力

様々な大きな物語(神話)の崩壊

家族・終身雇用・学歴社会……



① 生きることへの諦め(死、世紀末思想)

② 享楽や性への逃避(援交、ポルセラ)

信じるものが無い社会 → ③ 信 = 神の再構築(オウムなど)

④ 信や絶対をめぐる戦い

⑤ 絶対主義の再興(ブチ・ナショナリズム、ポピュラリズム)



中森明夫という80年代人の言説

そしてある日、本当にミサイルは赤い尾を引きずり僕らの上空を飛ぶだろう。その時、たぶん神様は無力だろう。そう、終わりは突然やって来る。(中略)

世界の0終わる日、僕達はチケットぴあで芝浦インクの来月のチケットを予約するだろう。世界の終わる日、僕達は次のバーゲンの最初の日の日付にするしをつけるだろう。世界の終わる日、僕達は、おろしたてのアディダスからゆっくりと靴ひもを抜き取るだろう。

『東京トンガリキッズ』(1987)

中森明夫…80年代を代表する言説家。「おたく」という語の発見(?)者としても有名。



この時代の文化①

完全自殺マニュアル

鶴見済の著書である。

1993年(平成5年)7月7日に、日本の太田出版より初版が発行され、以後重版を繰り返し、100万部以上を売上げる大ベストセラーになった。



自殺のやり方を方法別にマニュアル化

自殺を勧めた本であるとバッシングの対象ともなった

同じことの繰り返し

「自殺マニュアル」の後書き……

ただ世界は終わらなかった。原発はいつまでたっても爆発しないし、全面核戦争の夢もどこかに行ってしまった。アンボトウソウで学生が味わったみたいに、傍観しているだけの80年代の革命家は勝手に挫折感を味わった。

これでやっとわかった。もう「デカイ一発」はこない。22世紀はちゃんと来る(もちろん21世紀は来る。ハルマゲドンなんてないんだから)。世界は絶対に終わらない。ちょっと「外部」に触ったくらいじゃ満足しない。もっと大きな刺激が欲しかったら、本当に世界を終わらせたかったら、あとはもう、「あのこと」をやってしまうしかないんだ。

この時代の文化②

岡崎京子

岡崎 京子(1963年12月13日 -)

世田谷区出身。夫は写真家の朱雀正道。

1996年5月に交通事故に遭い

療養中の状態が続いている1998年には角川書店が岡崎の家族の承諾を得て、

『UNTITLED』を刊行。タイトルは編集部と家族の話し合いにより決められた。2003年後半頃より過去作が次々復刊されている。



岡崎の世界観

テーマ 過食、拒食、性、死、消費と女性たち

あたし達の住んでいる街には
河が流れていて
それはもう河口にほど近く
広くゆつくりよどみ、臭い
河原のある地上げされたままの場所には
セイタカアワダチソウが
おいしげっていて
よくネコの死骸が転がっていたりする



あらかじめ失われた子供達。
すでに何もかも持ち、そのことによって何もかも持つことを諦めなければならない子供達。
無力な王子と王女。深みのない、のっぺりとした書き割りのような戦場。
彼ら(彼女ら)は別に何らかのドラマを生きたことなど決してなく、ただ短い永遠の中にただずみ続けるだけだ。

この時代の文化③

反動としての家族や愛情や夢の物語
90年代的な死や性という物語

共存した
過渡期的時代

KAN『愛は勝つ』

大事MANブラザーズバンド『それが大事』

スピッツ、プリアントグリーン

『101回目のプロポーズ』(1991)

『ひとつ屋根の下』(1993)

『高校教師』(1993)

『人間・失格〜たまたまぼくが現れた』(1994)

野島伸司の変化

ある映画とあるドラマ



1984年
うる星やつら2
ビューティフルドリーマー(予告編)



高橋留美子の原作の世界観を押井守が監督によるオリジナルストーリーで描いた作品。

官代社会学による「終わり無き日常」

同じことの繰り返し

流行の出現 追いかける 次の流行の出現



終末思想の流行

- ①、地下鉄サリン事件 1995年3月(男の子型)
②、ブルセラ・援助交際ブーム(女の子型)

世界を見渡して、世界を輝かせなくちゃ！自分で世界を変えなくちゃ！！の欲求を放棄して自分の半径1メートルくらいの範囲で今この瞬間☆を生きるためのコミュニケーションスキルを身につけることが、この＜終わりなき日常＞を生きるための知恵

官代社会学による「終わり無き日常」

同じことの繰り返し

流行の出現 追いかける 次の流行の出現



終末思想の流行
ノストラダムス 1999年7月

ベトナム戦争も連合赤軍にも乗り遅れたし、ハルマゲドンや核戦争が起こることもない世界の終わりもない、永遠に続く＜終わりなき日常＞を生きる術の答えは「ず～っと続く日常」の中でまったり生きること。だって世界は変わらないんだから～☆

95年という切断点

1995年の事件

- 1月 阪神淡路大震災
3月 地下鉄サリン事件
10月 新世紀エヴァンゲリオン 放送
11月 windows95の発売

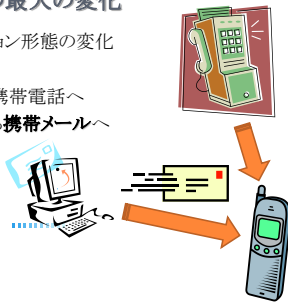


ミリオンセラーの乱発
ルーズソックス・アムラー・ポケベル
たまごっち

95年前後の最大の変化

コミュニケーション形態の変化

公衆電話から携帯電話へ
電子メールから携帯メールへ



携帯電話のもたらすコミュニケーション問題

①、家族から個人の場を強く守る機能

部屋で直接外部とコミュニケーション
個人 → 家族 → 社会

②、場所という約束の崩壊

時間や場所を拘束しない
その時間にその場所にいる不必要
参加したい時に参加するコミュニケーション

③、個人生活を束縛する携帯メール

パソコンメール → 携帯メール

④、携帯メールというメディアの軽さ

スルーという自己防衛